

2013 年度第 1 回分析分科会運営員会議事録

2013 年 4 月 8 日分析分科会事務局

開催日時：2013 年 4 月 8 日（月）13:30～15:30

場所：産総研臨海副都心センター（東京都江東区青海 2-3-26）

出席者（敬称略）：

上野（東京都立産業技術研究センター）、林（東京都立産業技術研究センター）、安達（滋賀県工業技術総合センター）、佐々木（滋賀県東北部工業技術センター）、伊藤（福島県ハイテクプラザ）、大橋（名古屋市工業研究所）、平岡（愛媛県産業技術研究所）、林（岐阜県産業技術センター）、丹羽（岐阜県産業技術センター）、衣笠、黒岩、伊藤、桐原、大畑、鈴木（産総研）

欠席者（敬称略）：

坂尾（神奈川県産業技術センター）、工藤（秋田県産業技術センター）、南（京都市産業技術研究所）、福本（産総研）

<議事次第>

1.資料確認

2.出席者確認

各自、自己紹介

名簿に間違いがあったら、事務局（鈴木さん）に連絡してほしい。

3.平成 25 年度の年間日程の確認

承認された

4.予算の確認：資料の通り

平成 24 年度：約 100 万円

平成 25 年度：ほぼ同額（約 100 万円）

5.平成 25 年度分析分科会年会について

①分析分科会共同研究（無機分析；ステンレス（SUS），案）：上野氏（都産研）が説明
この資料（1 ページ目）が、手順書相当。この手順書について、議論した。

以下コメントと回答など

・この 4 元素でいいか？→良い

- ・この分析のセールスポイントは？→SUS の分析は需要があり、正確な分析が求められている。規格から外れるかどうかポイントで、正確な分析を実現するために共同試験をする。
- ・例えば Cr が 17.5 % という数値が出たら、報告を取りやめようかと思う。だいたい 18 % 以上と分かっているから。また今回の共同試験で用いる試料は、市場流通品であると分かっているため。
- ・参加機関は皆、滴定法を用いるのか？→元素によるが、別方法も重要である。
- ・手順書に複数手法での定量分析を推奨する旨を書くかどうか？→記述する。
- ・報告の仕方→留意点に書いてもよい。
- ・複数手法で定量分析する場合、元素数を減らす必要があるのでは？→参加機関にとって、それほどの負担にならないと思うし、複数の手法でも 4 元素について報告してくれると思う。
- ・外れた値は記録に残るが、大丈夫か？→若干懸念があるが、概ね大丈夫だと思う。データは外部から閲覧可能だが、電子媒体はパスワードで保護されている。冊子体ものは事実上の限定公開であるので、不特定者への閲覧は事実上なく、上記の懸念はそれほど大きくないと思う。
- ・報告桁数は 4 桁と記載する。記載例を付けておく。報告桁数の背景とその理由を記載する。(統計処理上の問題から報告値を 4 桁にするという文言を付ける。有効数字と言う文言は使わない)。
- ・共同分析用の試料について、伊藤氏(産総研)が説明。
→試料処理はセントラル技研が行った。均質性は JFE テクノリサーチが評価した (Si: 1.62 %, Mn: 0.65 %, Cr: 0.28 %, Ni: 0.48 %)。
- ・JIS について記述があるがこれは何の JIS か？→元素ごとについての JIS と ICPOES および XRF。
- ・ICPOES で分析値が低い場合、滴定法で再分析(滴定法の方が信頼性が高い)することになると思う。
- ・Si は ICPOES による分析が多いか？AAS もあるか？→それ以外に XRF もあり得る。
- ・手順書(本資料)については修正する。目的についても加筆する。
- ・本共同分析に関する資料は、都産研(上野さん、林さん)が修正する。

②材料評価について：衣笠氏(産総研)から説明

- ・前回の共同試験：ナノ粒子(100 nm)
しかし、レーザー回折法だと粒径が小さく、上手く測れず不評であった。
なので、今回は(やるなら)200 nm 粒径(平均粒径)で準備。
データ解析を衣笠氏が行える見通しが立っていないので、今のところ保留。

③EPMA の共同試験：衣笠氏（産総研）から説明

- ・是非行いたい、準備不足のため今回は見送り。来年度の共同研究開催に向けて、試料準備に努めたい。

その他：

- ・材料評価の共同試験について、何かコメントはないか？→ある場合、衣笠氏（産総研）または事務局（大畑・鈴木，産総研）に連絡する（随時）。

- ・12/5（木）～12/6（金）の年会のタイムスケジュールについて、意見交換
上野氏（都産研）から

10:00 スタートがいいかと思うが、どう思うか？

東京駅に 9:00 についても間に合いそう。

平岡氏（愛媛県）→前泊する。12/4（水）に第3回運営委員会を行うので。

開始は 9:00 として、受付を 9:00～として

入館受付と講演会受付を同じ受付で出来るようにする。

お昼はずらした方がよい。

昼休みは 1 時間？ 1 時間半？→1 時間 20 分程度がいいと思う。

例年は弁当代（1000 円）で弁当を用意していたが、都産研周辺は色々レストランがあるので外に出てもいいと思う。

標準 6 講演（途中休憩 15 分含む）でこれまで行ってきた。

講演数が多ければ、2 日目に講演をずらすことも？あり？

ランチの案内マップを用意→都産研が既に持っている。準備可能。

ホテル情報、交通情報については、特に通知はなしにする。

2 日目は 9:30 くらいから？

帰りの時間、例年地方であれば 15:00 解散

特別講演の謝金

特別講演の内容→都産研の推薦あり。打診する。内容は試験所認定など。

大容量のピペッターの JIS → 上本氏（都産研）？林氏（都産研）が打診。

希望があれば事務局に知らせる。

交流会をどうするか？

テレコムセンター 21 F にアイハウスはどうか？（都産研：上野氏提案）。立地良し。

会費 5000 円/人くらい、半立食パーティー形式。

持ち込みは出来るか？→レストランに問い合わせる。

会場は、マイクや宴会台など、用意可能。

報告様式について

滴定法についての報告書様式を大橋氏（名古屋）が作成し、メーリングリストに送付。

来年度の会長県が、年会で挨拶が必要か？→交流会で挨拶して頂く。プログラムにないということは、交流会で挨拶。

挨拶する人間は、所長？次長？→所長、次長クラスが例年である。

何分くらい？5～10分くらい？口頭での挨拶。

材料評価の粒径評価はいつ頃に明確になるか？

予算の資料は、現在申請・査定中なので、まだ未定。

材料費は50万円くらい。

候補試料は？岐阜県は石灰岩の分析をしたらどうかと考えているが、まだ未定。

年会プログラム案のその他7.について

年会前の運営委員会には次期開催県の所長等の出席は必要か？→必須ではないが、ウェルカム。